



おぐに議会だより

第11号

平成25年2月10日

北里柴三郎博士  生誕160周年生誕祭

医学博士

- 東北研修を終えて
- 町政を問う(一般質問)
- 未来の有力議員
- 追跡 学校跡地は
- 新事務局長紹介 編集後記

小国小学校4年生による学習発表

活性化へ 向けて

「資源循環型農業を目指し 薬味野菜を作って小国オリジナル農業へ」

[産業活性化特別委員会]

産業活性化特別委員会では、小国町の農業の活性化を図り、農業所得の向上と小国オリジナル農産物の創設に向け資源循環型農業の提案を行い、町が取り組んでいます。

資源循環として、生ゴミの堆肥化に取り組んできました。A M L農業経営研究所・武田健所長の指導の下、平成21年より研究してきました。現在、学校給食センターから出る食品残渣を活用した堆肥づくりのため堆肥舎建設に取り組んでいるところです。今後は、婦人会の皆様にも食品残渣を活用した堆肥づくりに協力頂きたいと思っています。

現在、農業経営塾に、ホウレン草・キュウリ・ナス・アスパラ・七草・酪農など11農家が指導を受け、2年目となります。土壌分析などデータ化し、土壌改良の指導を受けて、収量・品質が良くなり、品目は優で出荷しています。今年からは、高収入が望める薬味野菜の導入を図るため、まず手始めにプランター栽培の指導を受けています。三つ葉・ルッコラ・ネギなどを37名が受講し好評を得ています。来年度



は、町有地を活用した小規模農家向けに実験農場を設け土壌分析等を行い、土壌改良の方法や野菜の葉の管理等の指導をする予定です。

この企画の発信基地として、現在けやき広場横の元JA支所跡に、栽培指導を本格的に行うための肥料や苗を提供する施設とガラスハウスの設置をしていく予定です。

今後は、町内はもちろんですが、町外の人に小国の薬味野菜を広く知ってもらえる情報の発信も行っていく予定です。また、加工品の開発等も行い特産品化し、付加価値を付けることも視野に入れています。朝取り市とは別の直販所も検討していきたいと思っています。

町内の人に一人でも多く参加していただき、資源循環型農業の基礎を確立するため、皆様の参加をお待ちしています。

問合せ先 小国町産業課

46-2112

産業活性化特別委員長

奴留湯 哲宣

議員行政視察研修を実施

岩手県遠野市

ネット活用で 健康づくり

■すこやかネットワーク

遠野市では妊娠から老後までを、妊娠・幼児期、就学期、成人期、高齢期の4段階に分け、インターネットなどでの情報提供、パソコン・携帯電話を利用したネット上での健康管理、利用者・福祉機関・病院での情報共有、または遠隔地医療に取り組んでいます。光ネット(ケーブルテレビ)を整備した小国町でもぜひ取り組むべきものでした。

被災者支援

東日本大震災被災地に隣接する遠野市は、震災発生直後から独自に物心両面の支援を開始し、現在は、大きな仮設住宅を建設。被災者の受け入れも行っています。災害時の近隣自治体間の協力があり方を学びました。

宮城県釜石市、東松島市

災害対応

■防災教育

釜石市では学校で防災教育を受けた小学生が、「逃げなくても大丈夫」という家族に、避難を促し助かったというエピソードが語られました。小さな頃から防災教育を行っていく事は重要です。

■職員・消防団の活躍

東松島市ではたくさんの職員・消防団が自らも被災しながら避難誘導から搜索、遺体の収容から洗浄までを行いました。議員として、職員・消防団員の公務労働の重要性を改めて認識する機会になりました。

復旧・復興

■住宅移転

東松島市では住宅の移転先を市民で決め、新しいまちづくりを進めようとしていました。

当たり前の事のようにですが、他の被災自治体では住民の意見が聞かれない復興を進めたために、復興住宅が空きになっているところもあり、貴重な事例です。阿部秀保市長は「平時には住民の意見をしっかりと聞く事は大事。だが、非常時にはトップダウンが必要になる。」と語りました。

■ガレキ処理

東日本大震災では大量の震災ガレキが発生しました。多くの被災地が広域処理を選択する中で、東松島市は「東松島で出たガレキは東松島で処理する。」という方法を取っています。分別など大変な手間が掛かりますが、そこに雇用も生まれ、金属などは売却し、平成23年だけで、およそ2億円の収入を得ています。

北里研究所

創立100周年 記念事業を計画

2014年は北里柴三郎が1914年11月5日に北里研究所を現在の場所、港区白金に創立して100周年の年を迎えます。また、現在の病院の前身である付属病院が戦火で焼け落ち、戦後、北里研究所病院として再建されてから50周年の年でもあります。これらの記念事業として、小国町でも記念館や北里文庫の改修、記念行事の開催などが計画されています。研修会では、研究所と小国町、町議会が連携して記念事業を成功させようと確認しました。



平成24年
12月議会

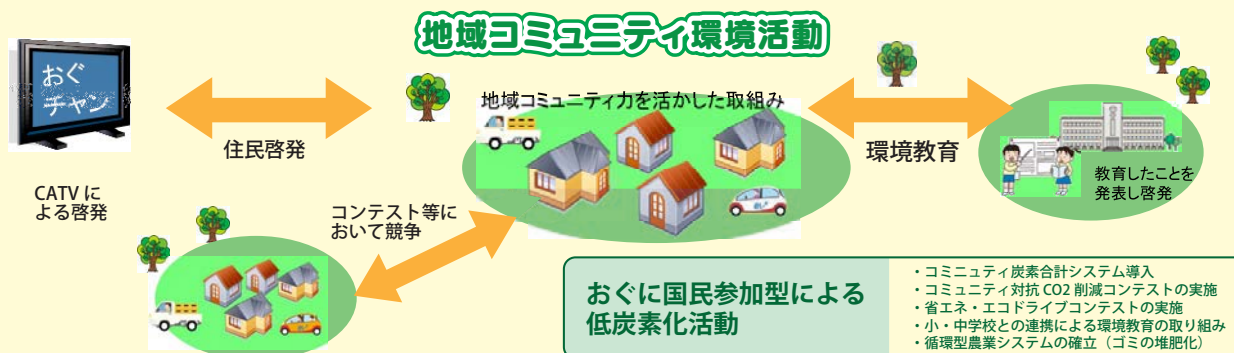
小国町議会第4回定例会

会 期

自:平成24年12月12日
至:平成24年12月14日

一般会計補正予算追加4,048万9千円を承認

環境モデル都市推進費 449万7千円を追加



退職手当特別負担金	1,471万円追加
老人ホーム費(倉庫新設工事)	100万円追加
RDF(ごみ固形化)施設負担金	758万2千円追加
財政調整基金積立金	548万1千円追加
くまもと飼料用稲生産流通モデル推進事業補助金(事業内容に合致せず取り下げ)	210万円減額

介護保険特別会計補正予算追加57万8千円を承認

一般管理費追加 57万7千円 介護予防費の組み替え(35万円)

条例改正

小国町長の給与の特例に関する条例(10%減額 3ヵ月)
町職員の情報公開条例違反の監督責任

専決処分承認

一般会計補正予算696万円追加 (衆議院議員選挙委託金)

固定資産評価審査委員及び人権擁護委員を選任

固定資産評価委員	室原 知邦(1期目)
人権擁護委員	穴井 千鶴(1期目)

請 願

MV22オスプレイの普天間基地配備、熊本県内低空飛行訓練に反対する決議についての請願書
あそ九条の会代表 禿 浩道 反対多数で否決

食育の位置づけ

渡邊 誠次



問 食育は親から子どもへと教える、伝えることが基本ではないか。

【教育長】 学力、基本的な生活習慣をつけるためには食事が非常に大事である。朝食を食べて来ない子どももいる。家庭でできない部分を少しでも補えるよう小中学校の全

体計画を考えていく。

問 食事をきちんとできる家族との考え方、捉え方が学習のサポートに比例するように思えるが。

【教育長】 子ども達の個食も増えてきている。講演会等を通じて子ども、保護者だけではなく、町民にも啓発していくが、

理解を得るのが難しいところもあるので小中高を通しての食育で将来の大人を教育したい。

問 給食の産地明記は。

【教育長】 地元の食材を使うよう努力しているが、価格面、生産の連絡調整が難しく今後の課題である。新しく給食セン

ター、ランチルームができれば、地元のお米も提供できるようにするのがは。

問 子どもたちの体の6分の1は給食で作られている計算になる。非常に大事である。

【教育長】 家庭との連携により、学校給食と家庭

の朝夕食のバランスをとる。やはり食育の啓発が重要になる。

「いただきます」「ごちそうさま」の意味合いは世界の中でも日本にしかない。食育の定義等教育に、広報に努めていきたい。

意識改革全般

時松 唯一



問 職員の公用地の駐車協力金及び住民の常時駐車に対する考えは。

【総務課長】 職員については、できれば新年度から協力金として検討協議する。住民の常駐駐車については、持ち主に注意した。青空市場は、地元

協議中である。

問 職員の意識改革について罰則や管理の強化だけでは不十分であり、問題

は外部ではなく内部にある。全体会等を通してコンプライアンス（法的遵守）の専門的研修は職員同士で自主研修し、町費を使つての研修は、職

員全体の共有研修にするべきだ。成果発表等も実施すべきと考える。

【町長】 提案として受止め、行っていきたい。また発言していきたいと思つている。

問 小国町総合計画や事業計画は、消費税が社会保障一体改革の中で、地

方にどれだけ入るのかなど、計画は随時見直し、確認する必要があると考えるが。

【町長】 情報をいち早く取入れて、町の将来のために社会全体の状況を見ながら考えている。事業計画については、一年毎の見直しをする。

問 住民訴訟（和解）については原告が11月6日に訴訟取下げ、和解した。これは今迄の調査が不十分であつたからだ。今後は、町長の責任を果たし、町民の負託に応えていきたい。

【町長】 町が発展するため



町道改良工事計画とレンタルサイクル活用は 穴井 帝史

【町長】 町道の改良工事について。優先順位をつけ予算を集中化し進捗率を上げる事は出来ないか。また、町道カーブミラーの管理状況は。

【町長】 見通しが立たない現状である。今年度の社会資本整備交付金が激減している。それぞれ重

要な所があるのは理解しているが、1路線に整備を集中させるわけにはいかない。

【建設課長】 路線を限定しながら事業実施している。地元からの強い要望に少しでも対応していきたい。カーブミラーは申請があれば、予算の範囲

内において早急に対応していきたい。

【総務課長】 重ならないよう協議していきたい。

【町長】 最大の改善していきたい。

かもしれないが、土・日、夜間いつでも納税出来るコンビニ振込の検討は。

【町長】 最大限改善していきたい。



インフラの安全性と財政計画 松崎 俊一

【町長】 小国町をはじめ、日本のインフラ（公共の施設）は1960年代の高度成長期に急速に整備されたが、50年経過した今日、その寿命を迎えた施設が多く存在すると聞く。小国町でも、道路・橋梁・トンネル・水道施設など、今後の建て替え

や付け替え、補修などの計画はどのようになっているか。また、その対策に伴う財政の中長期の計画は現状に合った計画となっているか。開発センターも40年以上経過している。

【町長】 住民の生命財産を守る立場で、国土の強化、防災減災の取り組みが急がれる。現在、総合計画、耐震化計画、目視による危険箇所把握など行っている。

【町長】 最大の改善していきたい。





子どもの医療費助成を情勢が求める水準に 児玉 智博

【町長】 小国町の子どもの医療費助成制度は、中学生までを対象に、町内の医療機関は窓口無料化されているが、小国の医療は町内だけで完結出来ない状況。町外の医療機関でも窓口無料化にする事を求める。

【福祉課長】 事務負担を増やすか、医療機関への支払を国保連や社保基金に委託する必要がある。その場合、最低200万円の経費が発生する。

【税務課長】 今年度徴収分から1000万円ほどと試算している。

【福祉課長】 さらに300万円位の財政負担が増える。

【町長】 町民にとっても利便性・福祉が進む事に異論はない。ただ、税収は1000万円増える事になるが、総合的に判断したい。引き続き調査をしていきたい。



木材の流通と水の保全

松本 明雄

【町長】 国内では現在、木材の需要率がまだ50%以下である。小国町では小国杉のブランド化に努めがなばっている。

【町長】 全伐の後については放置せずに植林をするよう森林組合も指導していると思う。一部補助金も出している。

【町長】 一年ほど前から

【町長】 直販所の建設は検討している段階である。積極的に木製品を販売していきたい。

【町長】 国内では現在、木材の需要率がまだ50%以下である。小国町では小国杉のブランド化に努めがなばっている。

【町長】 全伐の後については放置せずに植林をするよう森林組合も指導していると思う。一部補助金も出している。

【町長】 一年ほど前から

【町長】 一年ほど前から



循環型再生エネルギー政策を早急に望む

奴留湯 哲宣

再生エネルギーの政策について尋ねた。その中でも手軽に設置可能な太陽光発電設備の計画は考えているのかとの問いに、中学校の設備後計画していないとのことであった。

現在、小型軽量で安い太陽光発電パネルが開発され、小規模な施設でも取り

付け出来、蓄電も可能になってきた。小国町は環境モデル都市も目指しているし、今後電気料金は上がる一方で、将来は今の倍になるかもとの情報もある。経費削減のためにも早急な小国町エネルギー政策計画が必要と思う。また、個人向けも町が率先して

普及促進することを望む。

町は環境モデル都市になれば、有利な補助金等を模索し、取り組むとのことであった。

小水力発電や地熱発電も積極的に取り組むことを要望したが、地元の考え等を考慮しながら進めるとのことであった。町が先

導することを望みたい。

小国町光ネットワークの新規申し込みの免除措置の要望をした。現在は使用料の免除措置はあるが新設の免除は無く、工事費も含め約9万5千円位かかる。低所得者や年金生活者が新設する場合、高額な金額となる。せめて所

得制限や年齢制限(60歳以上)など加入金の免除を考える必要がある。早急に検討し条例改正を望む。

また、婦人会活動の中で、町の施設利用の優遇制度や活動拠点の提供を行い、婦人会の活発な活動と存続を考えてほしい。



農家・地域主体の鳥獣対策を

梅木 隆志

図 現在の鳥獣対策は、猟友会による捕獲や、電牧への助成など農家が主体的に取り組むものではなく、依存的な対策になっていた。しかし、効果的な鳥獣対策を行うためには、出荷しない農作物を畑に残さないとか、被害をもたらす鳥獣に合

わせた電牧の張り方を工夫するなど、農家や地域の人達が主体的に取り組む意識改革の必要性がある。その為の講習会やモデル地区の設置を。

【町長】農業面において鳥獣対策は非常に大きな案件。動物には、その人が農業関係者か、一般住

民かというのは関係ない。地域主体で取り組むのは同意できる。モデル地区というのも一つの案として検討する。

図 議員研修で東北の遠野市に行ったが、産婦人科が無くなったので、遠隔診察で妊婦健診が出来るようにしていたが、当

町ではどうなっているか。【福祉課長】公立病院には温泉病院の先生が、週一回診察に来て妊婦健診を行っている。

【町長】遠隔医療に関しては、熊大病院の専門の先生と公立病院の先生の間で、やり取りを行なっている。



電気牧柵器具



行財政評価に小国型方式の検討を 北里 勝義

については、管内の対応等を調査したい。

【町長】第2次小国町行財政改革大綱で、財政の健全化を図るため、行政評価等を導入し、効果的な行政運営、行政サービス等の行政改革を進めるとしている。このことを踏まえて、集中改革プランにおいて、行政評価が試行され、小国型方式を確立

しながら本格的な導入を目指すとしているが、どのように考えるか。また、評価方式として、費用対効果だけでなく、防災的評価、環境的评价があると思うが、町の考えは。

【総務課長】集中改革プランについては、一定の成果は出ていると思うが、今の現実に即応した新たな集中改革プランの検討も必要。

【町長】事務事業評価、施策評価は、行政改革において、重要な部分であり、内部で検討したい。また、提案いただいた評価方式についても、小国型方式を考えながら前向きに取り組みたい。

【建設課長】基本的には、条例に基づき徴収しているが、大災害や激甚災害に指定された場合には、激甚災害時は減免や限度額制度が設けられないか。



納税奨励金廃止に伴う地域の活動資金の確保を 北里 邦治

【町長】納税組織廃止に伴う諸税の収納率低下が懸念されるが。

【町長】今の納税組織は、個人情報保護等色々な問題を抱えている。本来の個人責任である個人納税という筋道を立てたいというのが廃止の大きな理由。新年度実施に向けて

個人納税案内のチラシや口座振替申込書の配布等による周知徹底に努めていきたい。

振興金（仮称）を考えているようだが、いままでの納税奨励金と大きい格差が生じる。これから街路灯の取り換え工事等を考えている地域には大きな負担と思う。3年間程度の傾斜配分はできないか。

【総務課長】納税組織の廃止により納税奨励金はなくなると理解していた。新年度からは地域振興交付金に変わると考えて頂きたい。





文書管理の徹底と町の活性化策

原山 光成

【総務課長】 文書の管理

現在、議会では、風力発電所立地の境界が南小国町と違うのではないかと百条委員会では調査している。資料となる文書管理が出来ていけばこの様な問題は起きなかったはず。文書管理はどうなっているのか。

は、法律や町の条例に従って仕分けされ、毎会計年度ごとに編纂して保存。但し、これらの施行は年限が浅く保存は十分でない。大変不得意な分野で反省している。

【教育委員会事務局長】 町内に多数の文化財が残されているが、管理・保存について把握できていないものもある。

【町長】 ご意見の通りの部分もある。観光客誘致は成果が多い。農林業、商業、6次産業等、総合的に産業振興を考えなければならぬ時に来ている。町の生産品を売る営業マンは、人員、組織等から検討する必要がある。



議会進行

- ・温泉を利用した地熱発電、太陽光パネル等のクリーンエネルギーによる先進的な町づくりを考えては。また少子化、過疎化対策は。
- ・小国町をPRするVTRで、町の魅力を発信し、観光の活性化を図っては。また、中学生のスクールバス利用はできないか。
- ・子どもを安心して育てられる町に。産婦人科、小児科の急患等の対策は。道路の段差、歩道のない道路はどう対処していくか。
- ・地産地消の小国町を。給食の野菜、スーパーの野菜はなぜ小国産のものが少ないのか。小国町の交通量、交通事故件数は。
- ・小国のキャラクター「おぐたん」がPR不足ではないか。また柔道場の建設が実行に移されていないのはなぜか。
- ・小国町がもっと安全になってほしい。けやき広場付近、寮の周辺の通学路に街路灯がないのはなぜか。

サポートセンター悠愛のグループホームとして活用していきます。



学校跡地利用関連一般質問

- ・23年9月 時松唯一、梅木隆志
- ・24年3月 穴井帝史
- ・24年6月 時松唯一

平成24年11月20日

小国町子ども議会

小国町山村開発センター

平成24年11月20日、小国町山村開発センターにて小国町子ども議会が初開催されました。小国中学校の3年生から86名の参加で議長を含む7人の子ども議員が小国町の活性化、諸問題に対しての様々な一般質問を行い、説明のために町長、担当課長の12名が答弁をおこないました。議員それぞれがしっかりと勉強を重ね、考えぬいた質問内容であり、また落ち着いた口調で



はつきりと執行部に伝えることができました。執行部も真剣に丁寧に答弁を行い、今後の小国町行政に反映させることを約束しました。将来有望な子ども議員の登場に小国町の発展の期待できる有意義な時間となりました。

議長

清高 慧伍君

1番議員

武田 士湧君

2番議員

河津 由衣さん

3番議員

宮崎 楓雅君

4番議員

秋吉 紗弓さん

5番議員

森山 大誠君

6番議員

工藤まどかさん

追跡 ～あん時の質問の行方は？～

旧小学校跡地は今・・・。

旧西里小学校

崇城大学芸術学部により教育研究の活動施設として活用されます。



旧万成小学校

旧北里小学校

(株)阿蘇自然の恵み総本舗に菊芋の加工施設として貸されます。
保育園では地域子育て支援センターとして活用をします。



旧蓬菜小学校は加工施設としての利用計画が進んでおります。旧下城小学校は利用計画が進んでおりません。住民の皆様のご意見、ご提案等をおまちしております。

小国町議会懇談会開催



平成24年11月から12月にかけて全6か所各大字において議会の報告、懇談会が開催され、会場には述べ162人の来場があり、町政に對して、また議員活動に對しての活発な意見交換が行われました。一般質問後の動向、新学校施設に對して、日々の暮らしに關する事などご意見をいただき、今後の参考にさせていただきます。懇談会のその後の協議についての詳細は次号に掲載をいたします。引き続きのご指導をよろしくおねがいします。

退任

前任 渡邊雄二さん



祝 就任

小田宣義議会事務局長



ごあいさつ

一月一日付で議会事務局長に就任した小田です。写真は笑っていますが、本当は真面目な男です。前局長に負けないように頑張りますので、皆様のご指導をお願いします。

お詫び

前号 小国町議会だより第10号の表紙に記載されていましたが決算額48億7900万円は誤りです。

正しくは約52億2600万円です。訂正してお詫びいたします。

編集後記

新しい年を迎え小国町議会事務局も小田宣義事務局長が就任。気分も新たに議会、執行部が一体となり、町政に邁進したいと考えております。

退任された渡邊雄二前事務局長におかれましてはたいへんお疲れさまでした。新人議員の私たちを熱心にサポートしていただき、感謝に絶えない気持ちでございます。今後はご健康に氣をつけてゆつくりとお過ごしいただき、また更なる活躍をご祈念申し上げます。町民の皆様にも新しい年を迎えてのご健康、ご発展を重ねて申し上げます。

渡邊 誠次

広報特別委員会

委員長 渡邊 誠次
副委員長 梅木 隆志
委員 奴留湯 哲宣
委員 児玉 智博

発行責任者

高村 祝次